

## 宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と答えた児童の割合は98.6%で、学ぶことの大切さを感じながら学習している児童が多いことが分かる。

○朝食や早寝早起きについての質問では、県の平均より肯定的回答が多く、特に朝食に関しては肯定的回答の割合が100%であった。また、1日当たりの動画の視聴やゲームの時間は、1時間より少ない児童が県の平均より若干多いという傾向も見られる。基本的な家庭生活は安定していると推測される。

●家庭学習について、宿題には92%の児童が真面目に取り組むことができる。「学校の宿題は、自分のためになっている」と答えた児童は98.7%で、宿題の意義を理解して取り組んでいることが分かる。反面、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習復習をしている」と答えた児童は約60%～70%にとどまる。このことから、自主的に学習する習慣は十分に身に付いているとは言えないと考えられる。今後の指導として、宿題の他に自主学習を推進し、自分が調べたいことをまとめたり、授業の復習などを行ったりする習慣づけをしていきたい。家庭と連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるようにする指導に努めていく。

●「人と話すことは楽しい」と回答した児童は97.3%と非常に多いが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」という質問の肯定的回答割合は52.0%であった。このことから、自分の考えをまとめたり表現したりすることに自信がなかったり、苦手だと感じたりする児童が多いことが分かる。今後、授業の中で自分の考えを書いたり、小グループで意見を交換したりする言語活動の場面を意図的に設け、思考力や発表力を高められるような授業を展開していきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分には、よいところがあると思う」「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の質問については、肯定的回答の割合が約60%～70%であった。学校と家庭が連携して児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達のよさを伝え合う活動などを実施して自尊感情の育成に努めたい。